

社会性の発達表（文献抜粋）

参考文献

1. 発達がわかれば子どもが見える 監修：田中真介（ぎょうせい）
2. 自閉症児のための社会性発達支援プログラム 編著：長崎勤 他（日本文化科学社）
3. 発達支援と教材教具Ⅱ 著：立松英子（ジアース教育新社）

発達年齢	太田ステージ 評価	社会的認知 の発達	社会性に関する内容
0-8 ヶ月	Stage I -1	行動と情動の 共有	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲に快不快が伝わる。 ・身体や表情の同期、情動の交換が可能 ・単に表情を模倣したり、反応するだけではなく、大人が快の表情を見せると子どもは快の発声を行うといった形で情動の交換が起こる ・大人が微笑むと笑顔を返す（情動の共有） <p>(2～3 ヶ月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不快感が芽生え、空腹時やオムツが汚れた時、目覚めて泣く ・抱くと泣きやみ、安心した表情を見せる ・目の前で物を左右に動かすと往復追視する <p>(4～6 ヶ月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左右上下の各 180 度の可逆追視ができる。 ・身近な人の顔がわかり、あやされると声をだしてはしゃぐ ・初期の人見知りが始まる ・社会的微笑の芽生え ・人見知りがあるが、援助があればもう一度相手を見るといった気持ちの立ち直りが見られる <p>(6～7 ヶ月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左右に対に提示された積み木を交互に繰り返し見比べる ・自分がほしいものがある時、そのことを視線や発声、表情の変化で表現する ・喃語が始まる
8-12 ヶ月	Stage I -2	目標と知覚の 共有	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲に要求があることが伝わる（クレーン現象） ・相手の行為の目標を理解し、相手に応じたり相手の行為を模倣したりすることが可能 ・相手の注視したものを注視できるようになる（共同注意）

8-12 ヲ月	Stage I -2	目標と知覚の共有	<p>(8~9 ヲ月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人の後追いや夜泣きが見られる。「8 ヲ月不安」 ・「マンマンマン」など要求や意味を伴った音声が出始める ・見つけた人や物への指さしが見られるようになる ・バイバイをすると手をだして振るような仕草をする ・叱られたことがわかり始める <p>(10~12 ヲ月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器の中に入っているものを出したり、真似して入れたりする。 ・積み木やお手玉などを包んだ布を外すなど、隠れた状態を除去して中身を確認しようとする ・相手のしていることに興味を示し、自分もしようとする (バイバイなどの模倣) ・他の子どもが持っている物に手をだすことや、相手に物を渡す ・相手から「ちょうだい」と求められると相手に物を渡し、褒められると繰り返す ・三項関係が芽生え、要求の手さしや指さしをする ・鏡の中の自分を見ることや他者を鏡の中に探し始めることなど、自他を区別する力が芽生える ・自分の名前を呼ばれるとわかる ・「パパ」「ママ」などの初語がでる ・玩具がついたての後ろで見えなくなったとき、もう一度玩具が出てくることを期待して待つ ・言葉で模倣を引き出すことができ、つもり行動が芽生える ・大人の目標を理解し、真似することで目標の共有ができる
12-18 ヲ月	Stage I -3	意図と注意の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲に要求の対象が伝わる (指さし、身振り、サイン) ・人の注意を引きたくて指さしを使う ・人の表情を参照する (社会的参照) <p>(1歳1ヶ月~1歳3ヶ月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意向に関係なく要求をストレートにぶつけて押し通そうとする ・要求が通らない時にだだをこねる姿が見られ始め、切り替えが難しい ・「ワンワン」「ブーブー」などの2つ重ねの音声をいう

			<ul style="list-style-type: none"> ・真似て歌おうとしたり、手をたたいたり、全身でリズムをとる (1歳4ヶ月～1歳6ヶ月) ・感情表現が豊かになり、満足を元におどけたり戯れたりする ・驚き、恐れ、怒り、嫉妬、不安、不満、悲しみの感情の分化 ・目標に到達すれば自分で感情を立て直すことができる ・言葉と対象が一致してわかる ・関心のあるもの、見つけたものを指さして、身近な大人に振り返り知らせる ・たくさんの絵から、聞かれたものを探し出しみつけます ・二音連続した反復音声を増やし、一語文「あった」「マンマ」などを話始める
18-24 ヲ月	Stage II		<ul style="list-style-type: none"> ・人の表情を参照しながら行動する ・わざと叱られる行動をして他者を試す ・自分の持ち物と相手の持ち物を区別し、自分の物に執着する ・人や物との関係が豊富になり、それらを調整していく ・「じぶんで」と主張する自我が誕生し始める ・だだをこねても選択肢を与えられることで、気持ちの転換や立ち直りができるようになる ・友だちと手をつないだり、待ったりすることができる ・使用できる言葉が30語前後に増加し、言葉で要求しようとする ・語尾の上げ下げで肯定や意思、疑問を表す ・一定の停滞のあとに、2歳ごろには2語文がでてくる ・名前を呼ばれると笑顔で「ハイ」と答えます ・呼ばれると、自分を指さして相手に示す ・指さしながら相手を見る交流の指さしが見られる ・声だけで親しい人の誰なのかわかる ・お互いの役割がわかって、2人で一緒に片づけをするなどプランの共有ができる
2-4 歳	Stage III-1	ルールの共有 テーマの共有	<ul style="list-style-type: none"> ・他者が示す見本を参照して操作する ・大人の評価を気にする ・○や×などの記号による評価がわかり、○で喜ぶ ・遊び相手が対大人から対友達へ移行する

2-4 歳	Stage III-2		<ul style="list-style-type: none"> ・周囲を見ながら行動を調節する ・言葉で行動を仕切りなおす ・友だち関係の中で優劣を気にする ・勝ち負けにこだわる（1番でないと気がすまない）
4-7 歳	Stage IV		<ul style="list-style-type: none"> ・大人の指導後に、子供同士で活動ができる ・ルールを意識して守ろうとして、人にも要求する ・簡単なルールのゲームを友だちとする ・劇遊びができる
7-15 歳	Stage V		<ul style="list-style-type: none"> ・自分から人に気遣いをする ・それぞれに役割をもって自主的に活動する ・人と協力して何かを成し遂げることを楽しむ ・同じテーマで話し合い、調整する